

平成16年12月1日

宮崎大学

No.18

工学部化学会会報

発行
宮崎大学工学部
化学会

〒889-2192 宮崎市学園
木花台西1丁目1番地
TEL(0985)58-7309(塩盛)
FAX(0985)58-7323



シーガイア



シーガイア内に新設された温泉施設(松泉宮：新月)

CONTENTS

- 本部から…………… 2
- 支部だより…………… 6
- 本部役員から…………… 9
- 物質環境化学科だより……………10
- 年次別所感(33年卒, 38年卒)……………14
- 職場を語る(日本TI,日之出酸素)……………15
- みやざきはいま(わかばに沸く飢肥城址)……………16



ごあいさつ

81.01

宮崎大学

工学部学生会会長 村上 悟

(30年卒)

台風一過、暑かった夏もいつの間にか移ろい、空に雲に、また地上の景色も色づきはじめ、秋涼爽快の候となりました。

同窓会会員の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。本年も恒例の第18号化学会会報を発行する事ができましたことは誠に喜ばしい限りです。

今年は殊のほか猛暑で、また台風も24回発生しそのうち日本列島に10回、九州には4回襲来しています。この現象は気象台観測史上稀に見る異常現象で、農作物や観光地の被害も極めて大きいようです。

一方、朗報としてはアテネオリンピックの日本勢の活躍はめざましく、目を見張るものがありました。日本もまだまだ捨てたものではありません。

また、ローカル情報としては9月27日から始まったNHK連続テレビ小説『わかば』。宮崎と神戸が主な舞台となり、6月には2週間の宮崎ロケが行われました。ドラマは日南市飢肥が舞台の中心となり展開しており、宮崎弁の方言がなつかしい方もおられるのではないかと思います。これをチャンスとしてドラマ『わかば』

が観光宮崎の復活の一助となれば幸いです。

扨て、私が会長就任以来、早や3年が経過し、去る6月26日宮崎市の東天閣で16年度の化学会理事会が開催されました。その中で、役員改選により河野恵宣理事長が副会長へ、後任として事務局長の塩盛弘一郎氏が新理事長に就任しました。河野前理事長には長期に亘り化学会理事長として、化学会の発展に寄与されました功績は極めて大きく本当に長い間有難うございました。これからは、副会長としてさらなるご盡力を賜りますようお願い申し上げます。また、塩盛新理事長には今後のご活躍を大いに期待致しております。

さて、私共の化学会は、支部活動が活動の中心ですが、どうか若い会員をどんどん同化して積極的な活動をされますよう期待します。私も、これからはできるだけ支部活動に参加するよう努力しますので、情報を頂ければ幸甚に存じます。

会員各位の榮えある未来に向うさらなる飛躍、発展を期待いたしますと共に、ご家族ともどものご健勝をお祈り申し上げ挨拶いたします。

本部から

理事会報告

理事長 塩盛 弘一郎
(63年卒)

皆さんお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。本年度の本部理事会にて河野恵宣理事長（宮崎大学工学部物質環境化学科教授）が来年平成17年3月でご定年を迎えられるにあたり後を引き継ぎ理事長として働くようにとの命を受けました。若輩者ですが河野理事長および先輩方が築かれてこられた伝統ある化学会をさらに発展させるよう努力していきたいと考えております。化学会は、私が河野理事長の研究室に助手として宮大に赴任したときから、先輩方に助けていただいたり、叱咤激励を頂いたり、また、

同年代の方々と化学会や生活・仕事の事を語ったりと、いろいろな面で支えになってきました。理事長としては至らない点も多く、助けていただくことも多いと思います。また、至らない場合は何なりとお叱り下さい。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年の理事会は6月26日（土）午後6時より宮崎市の東天閣にて村上会長以下15名の常任理事と東京支部から清水満支部長が出席されて開催され、（1）平成15年度事業報告、（2）平成15年度会計報告、（3）平成16年度事業計

画、(4)平成16年度予算、(5)会報No.18の編集、(6)役員改選について審議されました。役員改選は、河野恵宣理事長が副会長へ就任、塩盛弘一郎事務局長が理事長へと宮武宗利常任理事が事務局長への交代、坂元登氏(平成8卒)、渡司奈穂子氏(平成12卒)、古市佳代氏(平成13卒)、甲斐安祐美氏(平成14卒)の4名の常任理事への追加を承認いたしました。若者および女性の化学会への参加が活発になるきっかけとなることを願って理事をお願いいたしました。東京支部の清水支部長からも若手の化学会への参加が少なく、どの様に参加を促していくかが課題であるが、東京支部でも数名の若手の理事が活躍し、活性化してきているとの意見を伺いました。また、今年は工学部同窓会の名簿発行の年にあたり、化学会も協力して作業を進めているが、昨今の個人情報保護の諸事情もあり発行作業が遅れているとの報告がありました。その後の工学部同窓会理事会において、工学部から同窓会との密接な連携が重要との意向もあり、工学部同窓会は工学部と連携を取り名簿発行へ向けて作業を進めていくことになりました。今後、名簿発行に関する調査が行われますが、会員皆様のご協力をお願いいたします。

宮崎大学は、昨年10月に宮崎医科大学と統合により新しい宮崎大学として発足し、今年4月からは「国立大学法人宮崎大学」として新たなスタートを切っています。あらゆる運営体制と

規則が変わりその対策に追われ混乱していますが、今こそ教育研究に重点を置く必要があると感じています。宮崎大学では、教育研究活動の一層の推進と財源確保および財政基盤の充実・強化を目的として「宮崎大学教育研究支援基金」が創設されました。これは、大学が直接行う募金活動であり、近々案内が届くと思いますが、こちらの方もご協力お願いいたします。以前にご協力いただきました宮崎大学学術振興基金は募集を停止し、今後も基金の趣旨に添って国際交流事業等に活用されることとなります。物質環境化学科では、技術者教育認定プログラムの認定や工学部内措置の自然共生エネルギー研究センターの創設などを通して教育研究に積極的に取り組んでいるところです。実験室の労働衛生環境など企業で活躍されている先輩方のお知恵を貸していただきたいと感じることも多くあり、これからより化学会との関係も密にしていく必要があると思います。化学会としては、より一層の活性化を図り若手の参加を促すと共に会員相互の絆を深めていきたいと思っております。会費納入率は約30%以下であり、会員は毎年約70名ずつ増加していくのですが会費収入はほぼ一定であり、会報発行が危ぶまれる状況です。化学会会員一人一人のご協力が是非とも必要です。会費納入への皆様のご理解とご協力をお願いいたします。最後に会員皆様のご多幸とご繁栄をお祈り申し上げます。

宮崎大学工学部化学会(本部) 平成15年度会計報告

平成15年4月1日～16年3月31日

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|------|---------|---------|---------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 前年繰越 | 106,682 | No.17会報 | 417,960 |
| 預金利息 | 2 | 会議費 | 10,624 |
| 本部会費 | 424,000 | 事務費 | 10,000 |
| | | 翌年度繰越 | 92,100 |
| 合計 | 530,684 | 合計 | 530,684 |

上記の通り報告致します。

平成16年6月26日

本部会計 大戸正之 (代理 塩盛弘一郎)

金銭出納帳、預金通帳、領収証等について会計監査を実施した結果、適切な処理が行われており異議のないことを認め監査報告致します。

平成16年6月25日

本部監査 江藤信幸
岩切重人

宮崎大学工学部化学会会則

第1条 本会は、宮崎大学工学部化学会と称し、本部を宮崎大学工学部内に置く。また必要に応じ、支部を置くことができる。

第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、会員ならびに宮崎大学工学部物質環境化学科の発展を期するを目的とする。

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員

宮崎工業専門学校化学工業科卒業生

宮崎大学工学部

工業化学科卒業生

物質工学科応用化学コース卒業生

物質環境化学科卒業生

宮崎大学大学院工学研究科

工業化学専攻修了者

物質工学専攻応用化学系修了者

物質エネルギー工学専攻応用化学系修了者

2. 学生会員

宮崎大学工学部

物質工学科応用化学コース学生

物質環境化学科学生

宮崎大学大学院工学研究科

物質工学専攻応用化学系学生

物質エネルギー工学専攻応用化学系学生

3. 特別会員

宮崎大学工学部工業化学科、物質工学科応用化学コース、物質環境化学科関係教職員

第4条 本会本部に次の役員を置く。

- | |
|------------------|
| 1. 会 長 (1 名) |
| 2. 副 会 長 (2 名) |
| 3. 理 事 長 (1 名) |
| 4. 事 務 局 長 (1 名) |
| 5. 常 任 理 事 (若干名) |
| 6. 理 事 (若干名) |
| 7. 会 計 (1 名) |
| 8. 監 査 (2 名) |

第5条 役員は、次の方法により定める。

1. 会長、副会長は、会員の推薦により理事会で承認する。
2. 常任理事は、会員の推薦により、会長が委嘱する。
3. 理事は、各支部より選出された支部長とする。
4. 理事長および事務局長は、常任理事および理事の互選とする。

5. 会計および監査は、会長が委嘱する。

第6条 役員の職務は次のように定める。

1. 会長は、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
2. 理事長は、会務を執行する。
3. 事務局長は本会の事務を分掌する。
4. 常任理事は、理事長を補佐し、会務を分掌する。
5. 理事は支部を代表して本部との連絡にあたる。
6. 会計は、本会の会計を執行し、監査は本会計を監査する。

第7条 理事会、常任理事会の運営については、次のように定める。

1. 理事会は、会長が招集し、会務を協議する。
2. 理事会は会長、副会長、理事長、事務局長、常任理事、理事、会計及び監査をもって構成する。
3. 理事会は、委任状を含めて構成員の過半数で成立し、議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。
4. 理事会は、年1回以上開催するものとする。
5. 常任理事会は必要に応じて理事長が招集、開催し、理事会の決定に従い、通常の間を執行する。
6. 常任理事会は理事長、事務局長および常任理事をもって構成する。

第8条 役員の任期は1年とし、再選は妨げない。

第9条 支部長は、支部における事業の概要および会員の移動等について、毎年4月末日までに報告するものとする。

第10条 本会の運営費は、正会員会費（年額1,000円）と有志の寄付をもって充当する。

第11条 本会の会計年度は4月1日より始まり、翌年の3月31日で終わるものとする。

第12条 化学会会報は、原則として5年毎に発刊する。

第13条 本会の会則は、理事会において行うが、出席者の過半数の同意を必要とする。

付 則

本会則は、昭和56年5月30日から実施する。

平成元年7月22日一部改正。

平成2年7月14日一部改正。

平成11年6月26日一部改正。

宮崎大学工学部化学会役員名簿

H16.12.1

| 役職 | | 氏名 | | 卒業年 | 役職 | | 氏名 | | 卒業年 |
|------------------|--------------------------------|--|--|-----|-----------------------|------------------|--|---|-----|
| 本 部 | 会副 理事常 務局理 任理事 局長事 | 村河原佐塩宮深前川横湯鶴三重明山曾河後菅猪清小梅坂穂小岩吉渡古甲清清水安鈴宮湯大江岩日船 | 上野田藤盛武江田野山浅川野川重野石下根野藤本股山林元田幸田玉熊山司市斐水水井木原浅戸藤切高木 | 30 | 東 京 支 部 | 支 部 長 事 | 清 瀬 平 田 糸 大 秋 山 杉 新 鬼 古 太 矢 吹 井 小 渡 壺 桑 芝 本 | 水 瓶 山 明 修 芳 平 孝 盛 信 康 照 好 正 武 弘 久 信 幹 五 貴 一 耕 和 貫 明 文 康 啓 広 政 喜 正 順 正 慶 貞 | 55 |
| | | | | 38 | | | | | 22 |
| | | | | 38 | | | | | 28 |
| | | | | 41 | | | | | 31 |
| | | | | 63 | | | | | 31 |
| | | | | H5 | | | | | 58 |
| | | | | 33 | | | | | 26 |
| | | | | 39 | | | | | 31 |
| | | | | 41 | | | | | 32 |
| | | | | 42 | | | | | 32 |
| | | | | 43 | | | | | 33 |
| | | | | 44 | | | | | 38 |
| | | | | 44 | | | | | 39 |
| | | | | 47 | | | | | 40 |
| | | | | 53 | | | | | 40 |
| | | | | 60 | | | | | 42 |
| | | | | 61 | | | | | 44 |
| | | | | H1 | | | | | 46 |
| | | | | H1 | | | | | 52 |
| | | | | H3 | | | | | 57 |
| | | | | H4 | | | | | H4 |
| | | | | H4 | | | | | H4 |
| | | | | H5 | | | | | H6 |
| | | | | H8 | | | | | H11 |
| H8 | 34 | | | | | | | | |
| H9 | 46 | | | | | | | | |
| H10 | 34 | | | | | | | | |
| H11 | 43 | | | | | | | | |
| H12 | 43 | | | | | | | | |
| H12 | 46 | | | | | | | | |
| H13 | 49 | | | | | | | | |
| H14 | 50 | | | | | | | | |
| 55 | 37 | | | | | | | | |
| 34 | 37 | | | | | | | | |
| 30 | 45 | | | | | | | | |
| 34 | 32 | | | | | | | | |
| 36 | 39 | | | | | | | | |
| 43 | 41 | | | | | | | | |
| H3 | 45 | | | | | | | | |
| 33 | 46 | | | | | | | | |
| 35 | 51 | | | | | | | | |
| 22 | 53 | | | | | | | | |
| 24 | H1 | | | | | | | | |
| 43 | 34 | | | | | | | | |
| 38 | 39 | | | | | | | | |
| 33 | 22 | | | | | | | | |
| 33 | 22 | | | | | | | | |
| 45 | 40 | | | | | | | | |
| 49 | 41 | | | | | | | | |
| 60 | 36 | | | | | | | | |
| 63 | 37 | | | | | | | | |
| H5 | 38 | | | | | | | | |
| H9 | 41 | | | | | | | | |
| H11 | 41 | | | | | | | | |
| H11 | 52 | | | | | | | | |
| H12 | 55 | | | | | | | | |
| H3 | H2 | | | | | | | | |
| | H9 | | | | | | | | |
| 宮 崎 支 部 | 支副 理 | 湯原岩江黒田山山宮有鶴岩萩菅 | 直繁靖信幸敏浩宗明哲美那和 | 43 | 北 九 州 支 部 | 支 部 長 事 | 鈴木久松矢中宮富松串吉塚外小米 | 木保下野村原永野間井本園柳倉 | 34 |
| | | | | 38 | | | | | 39 |
| | | | | 33 | | | | | 22 |
| | | | | 33 | | | | | 22 |
| | | | | 45 | | | | | 40 |
| | | | | 49 | | | | | 41 |
| | | | | 60 | | | | | 36 |
| | | | | 63 | | | | | 37 |
| | | | | H5 | | | | | 38 |
| | | | | H9 | | | | | 41 |
| | | | | H11 | | | | | 41 |
| | | | | H11 | | | | | 52 |
| H12 | 55 | | | | | | | | |
| H3 | H2 | | | | | | | | |
| | H9 | | | | | | | | |

支部だより



東京支部だより

支部長
清水 満
(55年卒)

今年、私は7月中旬より10月末まで殆どの期間を中国華南地区にて過ごしました。

その間日本では数多くの台風が九州、本土へ上陸し、各地で甚大な被害を被っていることを現地のTVで見ながら遠方より心配しておりました。加えて新潟中部地震発生により多くの被災者がでたことは心痛の思いです。被害に遭われました会員の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

一方、中国では昨年大騒ぎとなりましたSARSも収まり、経済活動にも活気が出ております。私が出張しておりました華南地区ではコンテナを積載したトレーラー、トラックがひっきりなしに走っており、毎日道路が渋滞している状況です。改めて中国経済の勢いを感じた次第です。

さて、東京化学会では5月15日に総会を開催致しました。志摩先生、今田先生に加えて、現役の木島先生にも御出席いただくことができました。今年も昨年同様27名の参加者となりましたが、平成13年卒の森本殿、平成14年卒の三浦殿に出席頂き、平成卒の若手会員も7名の出席となりました。志摩先生、今田先生には近況をご報告頂き、木島先生には宮崎医科大学との合併の話等、活気溢れる大学の近況をご報告頂きました。また、会員からは週間ダイヤモンドのザ・大学ランキングの記事の紹介があり、宮崎大学が高く評価されていることに喜びと誇りを感じた次第です。

2次会では若手メンバーを中心に先生方を囲んで、先生方との懇談や学生時代の思い出話、これからのビジネスを語る等、楽しい一日となりました。

総会の議事録、様子は下記HPに掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

東京化学会HP

<http://www.chem.miyazaki-u.ac.jp/~tokyokagaku/>

本部HPともリンクされていますので、本部HPも併せてご覧下さい。

HPをより充実させていくために、会員の皆様の御意見も採り入れたいと思っておりますので、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。

東京化学会のH16年度年度活動の1つに、会員名簿の発行を予定しておりますが、名簿作成用調査ハガキの返信が少ない状況です。ハガキ未返信の方、住所変更された方、転居先不明者の方(東京化学会HPに名簿を掲載)につきましては、事務局または tokyokagakukai@infoseek.jp 宛連絡をお願い致します。

なお、総会では下記役員退任及び新任が承認されましたので、併せてご連絡致します。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 理事退任 | 昭和30年卒 | 東 達也殿 |
| | 昭和35年卒 | 福島 勝也殿 |
| 2. 理事新任 | 平成11年卒 | 本部 貴洋殿 |



関西支部だより

支部長
安井 啓 剛
(37年卒)

今年の夏は昨年と違って変わり、異常に暑い真夏日の連続でした。おまけに台風続きで、今もこの原稿を書きながら、早く台風のごとき自然現象を制御できる時代にならないものと念じております。制御できたらノーベル賞以上の偉業といえるでしょうが、我々の生存期間中はまあ無理なことでしょう。

ところで今年の支部便りは、今年の支部便りで予告

しました通り、主に総会の結果をお伝えすることとします。

総会開催は平成15年11月30日(土)12時から。場所は昨年と同様、道頓堀のご真ん中、道頓堀ホテルで、参加者42名、ご来賓の河野教授、塩盛助教授、そして特別に竹井名誉教授をお迎えして開催しました。今回の支部総会は昨年度総会の反省から、かなりの予備期間を設けて準備しました。出席いただく先生方々にも早々をお願いして確約いただき、その上で数度の幹事会で諸手配と役割分担を明確にして出来るだけ多くの会員の参加を呼びかける作業を続けました。当初支部会員166名の半数80名の参加者を目標としましたが、残念ながらまたその半数の42名という結果でした。

総会は安井支部長の挨拶に始まり、小宮副支部長(S45卒)の司会の下、新役員を選出や諸事項の決定がな



され、続いて来賓先生方々のご挨拶をいただきました。河野教授からは、大学の現状ということで、宮崎医科大学との合併の内容や平成16年4月からの独立法人化についての対応状況など、我々の関心が大きいことについて、詳しく解説説明いただき、よく理解できました。

塩盛助教授は1年間の海外研修留学から9月に帰られたばかりでありながら、無理を承知でおいいただき、海外状況や化学会事務局長としての苦労話などをお話いただきました。なお塩盛先生は来年度化学会の理事長に就任ご予定とのことです。今後の化学会発展のため、大いに期待したいところです。

竹井名誉教授は83歳になられ、なおかくしゃくとして、お元気なお姿を見せていただきました。先生は定年退官後、引き続き南九州大学で13年間教鞭をとられ、その間勲三等旭日中授章を受けておられます。お話はあらかじめ原稿を頂き、支部会報にも載せましたが、『仏様がくださった私の一生』という、先生の大学時代から退官後に至る努力と精進の日々を要約した内容のお話でした。我々一同深い感銘を受けました。

引き続き、懇親会に移り、吉田理事(S32卒)の元気な乾杯の音頭のもと、各テーブルでは再会、旧交を喜び楽しみあう声々に満ち溢れ、それぞれに飲み食ふ且つ語らいました。今回特別参加として、宮崎県大阪事務所勤務で企業誘致課長の小西(S56卒)さんにも挨拶と焼酎の差し入れをお願いし、一段と会場を沸かせました。また会員各位の活動状況を知ってもらう企画として、岩佐(S51卒 工博 ハリマ化成中央研究所長)さんから『ハリマ化成のR&D』

というタイトルで、近年注目を集めている次世代半導体用金属ナノペーストについての講演(話題提供)をお願いし、その先進性と活躍には、同窓生としても頼もしくまた力強い共感を覚えました。更に宴たけなわで、前田(S54卒)さん・有留(S46卒)さん両名の巧みな司会によるアトラクション焼酎プレゼント、それも幻の銘酒(?)『百年の孤独』3本(うち1本は河野先生の寄付)をはじめ数多くの宮崎焼酎をくじ引きで当ててもらい、当選者共々皆ニコニコ顔でした。その後出席者全員の自己紹介や喉自慢もありましたが、約3時間の楽しい語らいの後、黒木副支部長(S37卒)の閉会の挨拶で、また再会を約して、お開きとしました。最後に年長の権丈(S30卒)さん・椎葉(S32卒)さん・後藤(S33卒)さんから、若手(?)の山元(S57卒)さん・田幡(H1卒)さんに至る42名は先生方々と一緒に記念写真に納まり、その後余韻覚めやらぬ大半の人達は即2次会に移り、往年の元気もかくやとばかり大いに氣勢を上げました。

平成16年1月の幹事会では、支部総会は2年に1度開催することを決議しました。

名古屋支部だより

支部長 清水 一生
(34年卒)

暗い出来ごと、異常な気象が多く発生する中、オリンピック、パラリンピック等明るいスポーツニュース、とりわけイチローの数かずの新記録樹立は、完全にいやな話題をふきとばしてくれました。

今年も名古屋支部の活動と一昨年より紹介している二八会(S28年入学のクラスを中心とした会)の活動状況について報告します。

1. 名古屋支部の活動

昨年竹井先生をお迎えして開催した、名古屋支部総会と同じ会場(知立のセントピアホテル)で9月18日に名古屋支部役員会を、支部役員4名と会場近くに住んでいる2名をオブザーバーとして計6名で開催しました。各出席者の出身地・財テク・健康管理・趣味の

話などで、あっと云う間に時間が過ぎました。今回の役員会の結論として

イ⇒来期2年間の名古屋支部の役員は現状のまま
ロ⇒グループ活動としてゴルフを取り上げる

この活動のチーフとして上田さん(43年卒 アイシン化工勤務)をお願いする。以上

今後新しい企画を立案・実行したいと考えていますので、会員皆様の一層のご協力をお願いします。

2. 二八会の活動計画

今年は化学会への原稿提出日より二八会の実施がおそくなりますので、その実施計画を披露します。

宮崎・ひむか神話街道旅行と銘打って全工程運転手付のレンタカーで移動する計画です。この会を盛り上げる為に、今迄のメンバーの奥様方・友人・知人等の同伴も歓迎するとの考えに加えて今年は母校の地での開催という事で、二八会前後の同窓生にも参加をとの呼びかけが行われてきました。

その呼びかけに応じて今年クラス会を予定していた私達30年入学のクラスも乗せてもらいました。その

支部だより

計画の概要は下記の通りです。

宮崎・ひむか神話街道旅行

イ. 実行日 2004年10月25日(月)~27日(水)

ロ. 工程

| 日付 | 観光予定地 |
|--------|---|
| 10月25日 | 宮崎空港(集合)→高千穂(泊) |
| 10月26日 | 高千穂観光・百済の里(西の正倉院) 西都原古墳群・旧宮崎大学→青島温泉(泊) |
| 10月27日 | 宮崎大学・青島・堀切峠・鶴戸神宮→宮崎空港(解散) |

※全工程参加の人、26日に参加の人、27日に参加の人等
各人の都合に合わせて参加

ハ. 参加者 竹井先生、志摩先生、二八会メンバー8名、30年入学のクラス5名、29・31・32・34入学のクラス各1名、同伴者2名(奥さん1名、友人1名)

この宮崎・ひむか神話街道旅行の参加者を別の角度から見ますと、東京・名古屋・北九州・宮崎支部等の人達の集まりであり、化学会のミニ総会?とも云えそうです。どんな会話に花が咲くのか卒業後約45年ぶりにおめにかかれる先輩・後輩、高千穂にはいい被写体があると引っぱり出した友人の反応等ワクワクして来ます。残念ながら参加いただけない人のほとんどが、体調が良くないご様子で70歳前後にもうひとつの厄年があるのかなと痛感しています。

末筆になりましたが、この二八会開催にご尽力いただいた幹事の椎葉さんと情報収集に積極的に取り組んでいただいた杉本さんに感謝の念をこめて筆を置きます。

追 伸: 二八会・30年入学のクラス会以外にも、各クラスの会合等が実施されていると思いますがその情報を得たいものです。



福岡支部だより

支部長

宮原 陸人

(36年卒)

今年の日本列島は、台風の当たり年で、九州には16号、18号および21号が上陸するとともに、四国他各地に大きな被害が発生し、これも地球温暖化の傾向が影響しているのではなかろうかと、気を揉んでいるところです。

さて、福岡支部は、平成13年10月に総会を開催して以来、久しくなりますが、今年は、日本中がオリンピックの好成績で盛り上がったように、4年に一回の頻度で総会を開催するようにスケジュール化すれば、当支部も、より活性化するのはなかろうか…。そうとすれば、平成17年がその年に当たり、時期的にも丁度良いのではなかろうかと一人合点しているところです。

以上の私の腹積もりがどうなるかは分かりませんが、この10月下旬に幹事会を開き、色々打合せを行う予定であります。

今回の支部だよりは、上述しましたように、予定のみで申し訳ありませんが、次回の支部だよりは、活動内容をより具体的に報告できるものと存じております。



宮崎支部だより

支部長

湯浅 直克

(43年卒)

今年の夏は、ヒートアイランドの言葉が、よく聞かれる暑い夏と、後半には続けて16号、18号、21号の台風が九州に来襲して、各地に大きな被害を残しました。

会員の皆様には、猛暑と天候不順で、夏の疲れを残されておられる方もあるかと思えます。

さて宮崎支部の16年度総会を、8月6日に行いまして、女性会員も含め多数で出席頂き、支部活動報告、会計報告、同監査報告、役員改選が行われました。

化学会は、親睦の意味合いが強いのと思いますが、卒業生も毎年増えて、世代を超えて色々の話しが出来ると言うことは、大変良いことだと思います。

さらに女性の社会進出にも見られる様に、本化学会にも、女性会員が理事や会計を受け持って頂いており、

化学会を盛り上げて頂き、支部総会も明るい雰囲気で行うことが出来ました。

また卒業生が、毎年増えると共に、色々の職種に就職される訳ですが、異業種交流と言う意味でも、化学会は貴重な集まりではないかと思えます。

今社会は、少しずつ進歩し変わっていると思いますが、そのスピードが早いので、仲々ついていけないのが、現状ではないかと思えます。

イチロー選手の活躍は、感動を覚えました。小さなことの積上げが大切なことも、教えてくれました。良いと思えることを積極的に、取組みたいものです。

今年の化学会報が、11月に発刊されることになると思いますが、少しずつの積上げが、No.18号の会報となっていくもの、会員の皆様忙しいなかで、大変かと思いますが、前向きに取り組んで頂けることを期待しております。

宮崎も今から、ダンロップフェニックストーナメントや、女子プロ(LPGA)のゴルフトーナメントも行われ、少しずつ秋が深まって参ります。

機会を見て県外の会員の皆様には、宮崎へ帰って来て下さい。

化学会の一員として



常任理事
河野 豊
(平成元年卒)

ここ3~4年、毎回直撃と言われながら近づくこともなかった台風であったが、今年は異常気象なのか、はたまたこれが正常なのか、宮崎には4つの台風が来襲した。おかげで道路の決壊や収穫間近の農作物への被害は大きく、台風が通り過ぎた今も尚その爪跡を残している。また台風の来る時期においても6月から10月の下旬と長きに渡り、これまでの台風に対する常識を覆している。これはここ数年騒がれる地球温暖化の影響なのだろうか。台風以外にも私が気になっているのは、一ツ葉海岸や石崎浜の侵食が進んでいることだ。大学時代3輪バギーでフェニックスの展望所近くまで走りまわっていた砂浜は想像を絶する展望を遂げており、砂丘崖が見られるようになってしまったのではないかと。まさに、「ここまで地球温暖化がここまで進んでいるのか!」と思わせる光景である。

私は平成元年、工業化学科の卒業生であり、現在その経験と知識を活かし環境に携わる仕事をしている。毎日大気や水質等の検査をしていることで、人より地球温暖化が気になるのかもしれない。卒業当初はまさにバブルの最盛期。大量生産、大量消費、大量廃棄の時代であった。その経済構造は生活を豊かにし、経済力を向上させた。しかし、その裏では大量廃棄による環境破壊が問題となった。バブル崩壊と共に、まやかしの豊かさは姿を消し、代わりに泡の数だけ環境問題が残っていた。誰もがごぞって目先の利益を手にした代償はあまりにも大きいものとなって私たちに、そして未だ見ぬ子孫にまで重くのしかかっていた。これらの問題解決には今までのやりっぱなしから、循環型の経済システムへ移行していくことが不可欠だと私は思う。

工業化学科は私の卒業後、応用物理学科を加え物質工学科となり、さらに応用物理学科(現在の材料物理工学科)と分かれて、現在の物質環境化学科へと変遷され、地球環境の諸問題に対する「化学」の役割と使命を教育し、地球環境と調和した新素材の開発、資源の循環・再生まで、幅広く、将来的にも重要な学科になってきたと思われる。また、宮崎大学も昨年10月には宮崎医科大学と統合し、今年の4月からは独立行政法人として生まれ代わっている。時代の流れと共に企業のみならず大学も進化しなければならないのだろうか。

最後に、物質環境化学科の社会に果たす役割は大きく、将来に期待のおける卒業生が育ってくれるものと私は確信している。その若く優秀な力を無駄にしない為にも、化学会の一員として地元企業と大学との連携を密にし、

宮崎での環境問題、大きくは地球環境問題の解決に向けて共に努力したいと思う。

その後の高専

常任理事
清山 史朗
(平成4年卒)

河野研究室で修士課程までお世話になった後、2年間の空白期間を経て博士課程一期生として1996年に大学に舞い戻ってきました。1年間の学生生活の後(退学も一期生となってしまいました)、都城高専に赴任し、今年で8年目になります。現在でも毎週、河野研究室に出向いては、分析やディスカッション(+息抜き)をさせていただいております。現在、高専では専攻科2年生2名、専攻科1年生1名、5年生4名の計7名の研究生が私の研究室に所属しています。専攻科2年生の内1名は来年度から宮崎大学の博士前期課程に入学し、材料開発学講座でお世話になる予定です。自分の卒業した研究室へ学生を送り込むことはうれしく思います。また、5年生の内1名が3年生への編入学でお世話になります。私の研究室から3年連続して宮崎大学へ編入学していることもまた、うれしく思います。

さて、化学会会報第16号において、60年卒の山下先生から高専の紹介がありました。本稿では、その後の高専について少し書きたいと思います。まず、今年3月に専攻科生の第一期生が卒業し、物質工学専攻から5名の学士を出すことができました。大学とは異なり、専攻科で学士の学位を得るためには学位認定機構に研究論文を提出し、授業と研究に関する小論文試験に合格しなければなりません。私の研究室の専攻科生2名も昼夜、休日(+台風)を問わず論文に取り組み、つい先日論文を提出しました。日本技術者認定機構(JABEE)に対応するためにも専攻科生には頑張ってもらいたいものです。

また、本年度から全国の国立大学と同様、高専も独立行政法人国立高等専門学校機構としてスタートしました。まだ始まったばかりで私個人としては実感があまり無いのですが、事務や組合の方では色々大変なようです。一研究者としては、予算獲得や研究・教育業績を残すことで生き残っていかなくてはなりません。これを一人でやることは非常に難しいことですので、これまで同様、河野先生や塩盛先生との協力体制を続け、お互いが伸びていくよう頑張りたいと思います。

話は変わりますが、平成4年の卒業生は宮崎にかなりおります。宮崎大学に常駐している真君をはじめ、4月には曾根君も帰ってきました。二人とも私の釣りの師匠と化しています。平成4年卒の皆様は宮崎に帰ってきた折には気軽に声を掛けてください。ちょっとした同窓会が開けるかもしれません。

最後に会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げるとともに、御支援や御高配を頂ければ幸いです。

[宮崎大学の近況]

国立大学法人宮崎大学の誕生

学科長 林 幸男

(生物物質化学講座 教授)

平成16年4月1日に全ての国立大学が独立行政法人化されました。それに伴い、50年以上の歴史を刻んできた国立宮崎大学は幕を閉じ、国立大学法人宮崎大学が誕生しました。まさに、教育行政における歴史的な年といって過言ではないと思われます。教職員はこれまでの国家公務員から民間人に移行し、労働条件や組織運営など大きく変化しました。国からの運営交付金は大学における集中化と削減の傾向にあり、本年度各研究室に配分された研究費は激減しました。国立大学法人となった旧国立大学は、企業的機能を最大限発揮しなければ淘汰される時代が訪れたといえます。

以上のような状況において、物質環境化学科(物質工学科応用化学コースを含む)では2004年3月に78名の学士および15名の修士が巣立ちました。学部卒業生の内32名が企業に就職し、36名が大学院へ進学、8名が専門学校への進学者・自営業・未決定者でした。大学院修了生では、11名が企業に就職し、4名が博士後期課程へ進学しました。

教職員の動向としては、1月1日付けで廣瀬助手(生物物質化学講座環境生物工学分野)が、助教授に昇任しました。3月1日付けで田畑研二教授(資源環境化学講座分析化学分野)が独

立行政法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業から着任しました。4月1日に中村成夫助教授(資源環境化学講座化学工学分野)が共立薬科大学助教授として転出され、かわって10月1日付けで大島達也助教授が佐賀大学から転入されました。

学科の主だった動きとしては、「日本技術者教育認定機構(JABEE)」の認定のための予備審査を昨年度受審しましたが、本審査を本年度10月24~26日に受審します。また、来年1月に他大学および企業の有識者による外部評価を受審する予定であり、そのための準備も行っています。さらに、大学院改組を概算要求中です。承認されますと、来年度から物質工学専攻(応用化学コース)は物質環境化学専攻へ改組されます。

大学は、教育、研究、地域貢献など社会における存在意義を示さなければなりません。教育プログラムの改善および産官学連携や社会が求める研究課題の推進など、改革すべき課題が山積みされています。しかし、本学科は宮崎の地で真価を発揮すべく、積極的に絶え間なく努力してまいる所存ですので、母校へのご支援ご鞭撻を宜しくお願い致します。

最後に、卒業生皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

物質環境化学科職員(平成16年11月現在)

| | 講 座 | 教 授 | 助 教 授 | 助 手 | 技官・事務職員 |
|---------|-------------------------|---------|---------|------------------|-------------------------|
| 物質環境化学科 | 機能物質化学 | 河野 恵 宣 | 塩 盛 弘一郎 | 松 本 仁 | 齋藤 泰男 貝掛 勝也 佃 喜代美 |
| | | 木島 剛 | 酒井 剛 | | |
| | | 保田 昌秀 | 白上 努 | | |
| 資源環境化学 | 松井 隆尚 馬場 由成 田畑 研二 | 松 下 洋 一 | 大 島 達 也 | 菅 本 和 寛 大 栄 薫 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 生物物質化学 | 林 幸 男 横 井 春比古 | 湯 井 敏 文 | 宮 武 宗 利 | | |
| | | 廣 瀬 遵 | | | |

生物物質化学講座

(旧応用酵素工学研究室)

教授 横井春比古
助教授 廣瀬 遵

当研究室は、旧物質工学科時代は生物物質工学講座に所属していましたが、平成11年4月に物質環境化学科に改組されてからは生物物質化学講座に名称が変更しました。当研究室の初代教授である高崎義幸先生は、生物物質工学講座の立ち上げに大変ご尽力なされ、また応用酵素工学分野の教育研究に精力的に取り組まれて当講座の発展に多大な貢献をなされました。平成12年3月に高崎教授が定年でご退官になられた後、平成14年1月に横井が助教授から教授に、さらに平成16年1月に廣瀬が助手から助教授にそれぞれ昇任し、現在に至っています。この間に廣瀬は、平成11年6月から一年間、文部省在外研究員として米国のミネソタ大学に派遣され、環境バイオ分野での先端研究に取り組んでいます。また、平成13年には、研究室を元の5階から4階西側の旧学科事務室付近に移転しました。当研究室に在籍する学生数は、現在のところ博士前期課程（修士）学生が6名、学部4年生が8名となっています。

現在、物質環境化学科においては、学部教育ではJABEE（日本技術者教育認定機構）認定に向けて学科総動員で教育プログラムの改革に取り組んでおり、大学院博士前期課程では来年度に物質工学専攻を改組して“物質環境化学専攻”を新設する予定であります。本年4月に法人化されるとともに学科の改革もめまぐるしく進んでいます。当研究室には助手や技官などのスタッフがいないため教育研究以外の雑事に追われる毎日であり、以前のように十分な時間をとって学生に研究面での指導が出来ないのが悩みの種となっています。

当研究室の研究内容は、従来の応用酵素工学分野の研究に加えて、環境バイオテクノロジー分野の研究を中心に取り組んでいます。現在の



主な研究テーマとしては、「微生物を用いる廃水廃棄物からの効率的な水素生産システムの開発」、「微生物の生産する凝集性バイオポリマーの開発」、「細菌由来の酸化還元酵素を用いるバイオレメディエーション技術の開発」、「微細藻類によるCO₂からの有用物質生産と有害化学物質除去に関する研究」および「可視光利用型光触媒の殺菌作用と環境への応用に関する研究」が挙げられます。これらの研究の中で、微細藻類に関する研究は“都市エリア産学官連携促進事業（文部科学省：平成16年度～18年度）”に、光触媒の殺菌作用の研究は“地域新生コンソーシアム研究開発事業（経済産業省：平成16年度～17年度）”にそれぞれ採択されたプロジェクト研究の一部分を当研究室が分担する形で推進しています。また、最近では企業との共同研究で食品関連分野の研究にも一部着手し始めたところです。

我々研究スタッフは、これまで培ってきた微生物、酵素、バイオリアクター、組み換えDNAといった基盤技術をベースに、バイオならびに環境分野での地域並びに県外の企業及び産業界に少しでもお役に立てればと願っております。何か御用の切はお気軽にご相談いただければと思います。最後に、宮崎大学工学部化学会会員の皆様方の益々のご活躍とご発展を心から祈りいたします。

研究室に配属されてから

博士前期課程2年 脇山元気

工学部化学会報の原稿依頼を受け、文章を書くという事に非常に不慣れな私としては、非常に戸惑っておりますが、研究室に配属されてから感じたことを稚拙ながら自分なりに書いてみようと思います。

現在、私は生物物質化学講座に配属されて5年目になりますが、配属されてから初めのうちは、緊張の連続でした。私の配属された研究室では、初めのうちは先輩について基本的な装置の使用法や実験の進め方を習うスタイルをとっています。私を指導して下さった先輩は厳しい方で、実験は毎日深夜まで続き、実験をしているとき以外は、文献を訳したりして、私が少しでもサボっていると呼びに来られるぐらい徹底していらっしゃいました。その当時の私は少し、うっとうしく感じたときもありました。しかし、今考えると修論の前の大事な時期に、わざわざ覚えの悪い私のために、新しい実験を組んで、少しでも先輩が卒業なさるまでに実験操作を覚えさせようという努力なされたと思います。私が正式に配属されてすぐ研究に取り掛かれたのも先輩の熱心な指導のおかげであり、私が後輩に指導する立場になったこの頃になってそれがどれだけ大変だったか理解できるようになり、今更ながら本当に感謝しております。

今では先生方の協力や助言を受けながら、一人で実験を展開できるまでになりました。失敗や成功を何度か繰り返してきましたが、そこで一番感じたことは、実験を行っていく上で一番重要なことは情熱だと感じたことです。研究室に配属されてからの研究は、当たり前ですが、まだ成功していない未知の事に挑戦します。これは、すぐ当たり前ですがとても大変な事で、自分が満を持した実験において失敗したり、装置などの諸事情により上手くいかなかったりして、途方に暮れたりする時もあります。それでも、「絶対に成功させてやる！絶対にやってやるんだ！」という情熱さえあれば、やり遂げることが出来ると考えております。「どうせあの大学にはかなわないや。」と思うのではなく、研究にあたっては一人一人のモチベーションを上げていき、情熱さえ他大学に負けないようにすれば、地方の一つの大学に過ぎない宮崎大学を、化学研究において日本をリードする大学になる事も可能であると考えております。少し話しが大きくなりましたが、私は研究室に配属されて、研究を進めていく上でそう感じるようになりました。研究室に配属されてから感じたことを書いてみましたが、この会報を読んでいる皆様にも私と同じ事を感じている方がいらっしゃいましたら嬉しく思います。

まだまだ厳しい時期がつづきますが、これからの宮崎大学工学部化学会と同窓生諸兄のご発展をお祈りしています。



社会で活躍するために

物質環境化学科4年 吉村響一

私は、来年の春で宮崎大学を卒業し、社会人として働き始める。どのような考え方で働いていくべきか、今の私の考えをここに書かせて頂く。

サラリーマンにはなってはいけない

私は卒業後サラリーマンとして働きは始める。しかし、サラリーマンにはなってはいけないと考えている。タイムカードで時間を切り売りして働くサラリーマンのようにはなってはいけないという意味だ。何を中学生みたいなお仕事と思われるかもしれないが、私は、この考えは非常に大切なものだと思っている。自分の行っている仕事を深く考えず、会社のために一生懸命働く、そんなサラリーマンはこれからの社会には必要とされていないからだ。そのような人は、駒として使われただけで、その人自身が利益を生み出す仕組みを作り上げたわけではない。だから、どんな大企業で働いていても、駒として使われている限りは、工場のラインで働いているのと変わらない。そんな人は、デジタル化、機械化が進むこれからの社会では必要とされなくなるだろう。だから、時給で働くサラリーマンにはなってはいけないのだ。

PDCAのサイクルを回していかなければならない。

PDCAとは、Plan, Do, Check, Actionの4つのプロセスの事だ。

Plan…仮説を立てる

Do…試して実行してみる

Check…結果と仮説のズレをチェックする

Action…ズレがあった場合は、改善策を考える

この4つのプロセスを1つの事に対して繰り返し行う事により、成果が生まれる。何かアイデアがあれば誰かに相談したり、実際に実行して試したりしなければ、そのアイデアを評価する事はできない。良いか悪いか分からないからなければ、改善することもできない。居酒屋で同僚とぐちをこぼす暇があったら、それを自分で行動し、確認してみればよいのだ。考えた事を実行し、その改善点を考えていくことで、より良い成果を生み出していく事ができる。そのため、このプロセスを繰り返していく事が重要となる。

実験で学んだ事だって活きる！課題は、問題発見能力と行動力だ！

卒業研究を通して学んだことは、化学に関する仕事をする以外にも活きる。先生に教えてもらいながら実験を行い、もし結果が目標とするものと異なれば、違う方法を試す。多くの学生は、この、「まず実験をしてみて、だめなら違う方法を試す」ということは経験している。だから、今は何が一番重要なのかを見出す力、そしてそれをトライしてみる行動力があれば、多くの化学科の学生は社会で活躍していけるはずだ。



平成16年3月卒業生就職先および卒論題目

| 氏名 | 就職・進学先 | 論文題目 | 研究室 |
|------------|---------------|---|-----|
| 石津 昌之(修士) | 日立計測器 | 微小界面を利用したキノンメチドの光化学的発生とそのシクロ付加反応 | 機能3 |
| 伊藤 和紘(修士) | 熊本大学大学院 | ペロブスカイト型オキシサルフェートの合成と触媒特性に関する研究 | 機能2 |
| 岩永 健一(修士) | 東洋検査センター | ナノ構造体を經由するEu ³⁺ ドープ酸化イットリウムとの合成と発光特性に関する研究 | 機能2 |
| 河内 岳志(修士) | 同和 | アンチモンポルフィリン光触媒の殺菌機構の解明 | 生物2 |
| 陣之内孝太郎(修士) | テクシア | シクロプロパン誘導体のレドックス光増感アミノ化反応 | 機能3 |
| 砂田 啓公(修士) | 菱明技研 | ゾル-ゲル法による二重鋳型構造を有するシリカ吸着剤の合成と金属イオン分離メカニズムの解明 | 資源2 |
| 曾我 進(修士) | SONYセミコンダクター | オキシサルファイドおよび層状酸化物を用いる新しい水分解光触媒の開発 | 機能2 |
| 田中 孝輔(修士) | メディキット | アミノ軸配位アンチモンポルフィリン錯体の合成と性質 | 機能3 |
| 檀 直樹(修士) | SONYセミコンダクター | ギ酸イオンおよび水素化ホウ素イオンを用いる触媒的水素発生反応 | 機能2 |
| 津波伸一郎(修士) | 宮崎県環境科学協会 | フェノール部位を持つポルフィリン誘導体とアミン類の相互作用 | 機能3 |
| 濱田 心(修士) | 熊本大学大学院 | 貴金属架橋型ハイドラタルサイトの合成とNO-H ₂ -O ₂ の反応特性 | 機能2 |
| 藤川 大輔(修士) | 宮崎大学大学院 | 界面活性剤を用いた高分子ナノチューブの合成と分子鋳型機構に関する研究 | 機能2 |
| 藤原 蒼司(修士) | 霧島酒造 | 多段階連続蒸留操作の蒸留特性に関する研究 | 機能1 |
| 夜久かおり(修士) | 日本環境クリエイト | Bacillus subtilisの生成するラッカーゼによるフェノール系化合物の分解 | 生物2 |
| 吉村 巧己(修士) | 宮崎大学大学院 | 複合鋳型法による貴金属(Pt, Pd)ナノチューブの合成と特性に関する研究 | 機能2 |
| 木村 純一 | | キトサンおよびキトサン誘導体によるリン酸イオンの吸着平衡 | 資源2 |
| 新 谷 一郎 | 森薬品 | Penicillium citrinum MU-4由来菌体外β-フラクトフラニダーゼの固定化とフラクトオリゴ糖の生産 | 生物1 |
| 上 園 聡一 | | スギ材の溶媒抽出およびスギ材抽出物の抗菌性試験 | 資源1 |
| 大平 優 | JA尾鈴 | モデル焼酎中の微量成分の精留挙動 | 機能1 |
| 祐 下 眞 | アミダス | EuおよびCeを添加した酸化イットリウムとの合成と発光特性 | 機能2 |
| 高 桑 潤一 | 嘉穂無線 | N型結合高マンノース型糖鎖の分子動力学計算 | 生物1 |
| 内 匠 正太 | 宮崎大学大学院 | キトサン/有機酸およびキトサン誘導体によるE.coliの凝集特性 | 資源2 |
| 田中英志 | 宮崎大学大学院 | ルイスセルにおけるTOAトルエン溶液による亜リン酸の抽出速度 | 機能1 |
| 中川 雄二 | 宮崎大学大学院 | ビニルエーテルのレドックス光増感アミノ化反応 | 機能3 |
| 中島 功司 | 自営業 | 生活環境場におけるレジオネラ属菌の可視光殺菌:噴水での実証実験 | 機能3 |
| 山本 健介 | | スギの樹皮・葉の炭化反応および炭化生成物の分析 | 資源1 |
| 秋山 英輝 | | 散布薬剤の地中内拡散と添加散水の影響 | 機能1 |
| 池田 大助 | 富士通立派システム | EO系複合界面活性剤液晶構造の親水基依存性 | 機能2 |
| 石原 優一 | 宮崎大学大学院 | ポリスチレン粒子への共有結合を介したアンチモンポルフィリン錯体の固定化法の開発 | 機能1 |
| 伊藤 一守 | ゴークラ | スギ材の炭化反応による炭化物の酸素官能基形成 | 資源1 |
| 井藤 隆広 | エヌイーサポート | パイロミキサー抽出装置におけるTOAトルエン溶液による亜リン酸の抽出速度 | 機能1 |
| 彌 永康夫 | アース環境 | トアトルエン抽出装置におけるTOAトルエン溶液による亜リン酸の抽出速度 | 機能3 |
| 上田 陽子 | 専門学校 | 脂質の酸化に及ぼす抗酸化剤の影響 | 機能1 |
| 小笠原 望 | 九州大学大学院 | カフェインおよびテオフィリンの新規吸着剤の開発とその吸着平衡 | 資源2 |
| 辛 島 健 | 宮崎大学大学院 | 分子鋳型法によるナノポーラスカーボン合成の検討 | 機能2 |
| 川 越 尚美 | JST | 再生セルロースII型結晶構造の分子モデリング研究 | 生物1 |
| 北村 奈々 | 日本ITD | 複合鋳型法によるアバタイトナノ構造体の合成 | 機能2 |
| 黒木 威彦 | 富山富士通 | マイクロ波照射による軸修飾アンチモンポルフィリン錯体の合成 | 機能3 |
| 桑原 健志 | 宮崎大学大学院 | 塩化白金酸を含む複合界面活性剤(C12EO9/Tween60及びC12EO9/C18N(EO)X(EO)50-X系液晶の調製と構造評価 | 機能2 |
| 古賀 誠 | 山崎製パン | アピエタンジテルベンキンの合成 | 資源1 |
| 児玉 和靖 | 宮崎大学大学院 | 縫い込み型インターカラーターによる二本鎖DNAの抽出 | 資源2 |
| 小 仲 舞 | 南九州家庭教師センター | 天然セルロースIβ型結晶構造の分子モデリング研究 | 生物1 |
| 小 宮 康宏 | 宮崎大学大学院 | シリカゲル担持アンチモンポルフィリン錯体の安定性および光殺菌効果 | 機能3 |
| 後藤 彰澄 | 宮崎大学大学院 | カラーゲンモデルペプチドの分子動力学計算 | 生物1 |
| 佐伯 稔 | 専門学校 | 雷管工場における排水の酸化チタン光触媒による脱色化に関する研究 | 機能3 |
| 佐伯 勝之 | 宮崎大学大学院 | in situ重合法によるマイクロカプセル構造制御に及ぼす塩効果 | 機能1 |
| 嵯峨 亜紀江 | アイカ工業 | 菌体を用いたヒ素吸着に関する研究 | 生物1 |
| 迫間 涼子 | 大口電子 | スギ材のメタノール抽出および蒸気乾燥スギ材の樹脂成分の単離の分析 | 資源1 |
| 鯨島 喜和 | 九州大学大学院 | らせん分子鎖モデリングを目的としたプログラム開発 | 生物1 |
| 椎 菜 安信 | 小林工業高校 | キトサンへの官能基導入による重金属吸着の選択性の変化 | 資源2 |
| 島田 里美 | 佐賀大学大学院 | SPG膜を利用した微細気泡の創製と物質分離への応用 | 資源2 |
| 鈴木 政彦 | 宮崎大学大学院 | N-ヒドロキシフタルイミドを触媒とするマイクロ波照射下でのフルオレンのラジカル酸素酸化反応 | 資源1 |
| 果山 智美 | 専門学校 | 生分解性ポリマーマイクロカプセルへのタウリン内包とその粒径制御 | 機能1 |
| 高橋 大地 | 宮崎大学大学院 | N,N'-Diphenylguanidineによる塩酸溶液からのパラジウムの選択的抽出 | 資源2 |
| 田貝 泰 | 宮崎大学大学院 | マグネサイトによる砒素の吸着平衡 | 資源2 |
| 瀧 直人 | 鳥取県警 | β-キチン結晶構造における分子鎖配向と詳細構造の探索 | 生物1 |
| 田崎 努 | 宮崎大学大学院 | 新規抽出剤の開発とポリシロキサン膜を用いた金属イオンの膜分離 | 資源2 |
| 田 辺 史子 | 鹿児島県 | 密度汎関数計算法によるスクロスモデル分子の立体配座解析 | 生物1 |
| 谷 岡 直美 | 宮崎大学大学院 | in situ重合法によるマイクロカプセル内包特性に及ぼす塩効果 | 機能1 |
| 津田 博志 | 宮崎大学大学院 | アルカリ条件下における水素発酵菌の水素生産特性 | 生物2 |
| 中川原 英之 | 九州大学大学院 | ゼラチン固定化グルコシダーゼの調製とO-グルコシル化反応 | 資源1 |
| 中 鋪 千津子 | 石川金属工業 | シリカゲル担持アンチモンポルフィリン錯体のアルケン類の光酸化反応の機構解析 | 機能3 |
| 中 島 聡子 | 化血研 | アンチモンポルフィリン・粘土複合体の層構造形成における軸配位子の役割 | 機能3 |
| 中 谷 智 絵 | 宮崎大学大学院 | 複合鋳型法による酸化スズナノ構造体の合成 | 機能2 |
| 中原 功二 | シ-ガイアテニスクラブ | Diels-Alder反応を利用した0,0'-ジメチルヒネリノールの合成およびその合成中間体のリバーゼによる光学分割 | 資源1 |
| 中村 周平 | 協和牧場 | 光切断基を固定化したシリカゲル粒子の調製 | 機能3 |
| 中村 年秀 | 宮崎大学大学院 | Penicillium citrinum属菌由来キシラナーゼの酵素特性の検討 | 生物1 |
| 夏見 真弘 | 奈良先端科学技術大学院大学 | アンチモンポルフィリン/シリカゲル光触媒の各種微生物に対する殺菌作用 | 生物2 |
| 西田 有希 | 宮崎大学大学院 | 長鎖アルコールを含むC12EO9/Tween60系複合界面活性剤液晶構造の組成依存性 | 機能2 |

| 氏名 | 就職・進学先 | 論文題目 | 研究室 |
|-------|------------|---|-----|
| 二宮尚史 | 宮崎大学大学院 | Bacillus sp.N-16によるニトロ芳香族化合物の還元 | 生物2 |
| 野口聖人 | 本田技研 | 脂質酸化速度に及ぼす紫外線の影響 | 機能1 |
| 林小百合 | 九州大学大学院 | もろみ中の成分分布に及ぼす蒸留粕液添加(返し発酵度)の影響 | 機能1 |
| 張間裕 | 宮崎大学大学院 | フェノール/フルフラール系高分子ナノチューブの形態とアルコール添加効果 | 機能2 |
| 平居裕二 | 宮崎大学大学院 | ハイドロタルサイトを触媒とするナルトールおよびフェノール誘導体の酸化カップリング固相反応 | 資源1 |
| 廣澤直也 | 日本バイオファーズ | デヒドロアピエチン酸誘導体のラジカル酸素酸化反応を利用した天然ゼラチン合成 | 資源1 |
| 深見治之 | 福岡県警 | 高分子鎖型を用いたY-Ba-Cu-Oナノ構造体合成の検討 | 機能2 |
| 瀬川智和 | 宮崎大学大学院 | シリカゲル粒子への共有結合によるアンチモンポルフィリン錯体の固定化における固定化量制御 | 機能3 |
| 前川由佳 | キョーリン | 雑草由来の水素発酵菌の分離とその水素生産特性 | 生物2 |
| 松下彰浩 | 宮崎大学大学院 | ラッカーゼによるカテコール類の分解作用 | 生物2 |
| 溝口進一 | 宮崎大学大学院 | p-置換アニリン軸配位子がアンチモンポルフィリン錯体の蛍光および還元電位へ及ぼす置換基効果 | 機能3 |
| 満下宣子 | 宮崎大学大学院 | 光異性化能をもつ抽出剤の合成とその性質 | 資源2 |
| 宮田祐輔 | バイクフォーラム | 腐朽クスキ材のメタノール抽出と溶媒分画および溶媒分画物の成分分離 | 資源1 |
| 村中誠 | 岡山大学大学院 | 微粒子に担持させた鉄ポルフィリンによる酸化反応 | 資源2 |
| 柳田由美 | 宮永ENTクリニック | キトサン製造プロセスからのカルシウムおよびタンパク質の回収とその資源化 | 資源2 |
| 山口喜豊 | バンテクノ | チオール化キトサン誘導体の合成と貴金属の回収プロセスへの応用 | 資源2 |
| 山田哲郎 | 宮崎大学大学院 | Aspergillus属菌由来β-キシロシダーゼの精製と性質 | 生物1 |
| 山田美和子 | 宮崎大学大学院 | 変異処理によるBacillus sp.株のコラゲナーゼ生産能の改良 | 生物2 |
| 横田文和 | 奄美開運酒造 | 多段精留装置による返し発酵もろみの蒸留挙動 | 機能1 |
| 吉本幸士 | 鹿児島大学大学院 | 逆ミセルを利用したポリビニルアルコール微粒子調製と粒径制御 | 機能1 |
| 米倉 奨 | 大口電子 | 酢酸水溶液処理したスギ材の炭化反応および炭化生成物の分析 | 資源1 |
| 若松勝男 | 宮崎大学大学院 | エタノール/AM界面活性剤混合逆ミセル系における生理活性物質の分離特性 | 機能1 |
| 和場朱美 | 専門学校 | GLCと13C-NMIRによる糖質の分析 | 生物1 |
| 坂本有佳子 | 宮崎大学大学院 | スルホン酸基を有するステレン系高分子ナノ構造体の合成と組成分析 | 機能2 |

年次別所感

「ひむか神話街道」と二八会旅行記

杉本 信也(昭和33年卒)

はじめに 二八会は、昭和28年度入学者の会を言い、面倒見のよい秋吉君の命名で10年前から始まった。その経緯には、故・草野教授のご意向もあった。主旨は、全国に分散して就職している同期生を訪問し、土地の観光と旧交を温める目的であった。同級生が欠けていく中、一巡したのを最後に、今回は表題の赴くまで旅した。幹事はひむか神話街道みち筋の出身・椎葉君の立案である。

結果は、古代史に目覚め、大学の近代化に驚き、眼から鱗が落ちる思いの感慨深い、素晴らしい旅行であった。

旅程 コースは宮日新聞社発行の同名の探訪記に従った。2泊3日の旅程である。初日は、霧雨に煙る夕刻の高千穂峡が厳かで、印象深かった。高千穂神社の夜神楽は岩戸隠れの舞であったが、永々と継承されている民族神楽に、人間の歴史の重みをズシリと感じた。

翌日の天の岩戸神社では、宮司さんの神々の説明で、幼少時代の神話の絵本を思い出し、出てくる神々の名が懐かしくもあった。

百済の里では、白水江の戦いに繋がる歴史があった。人口2600人の僻地に、建立された「西の正倉院」は、南郷村長のアイディアによるといふ。村の若い責任者は腰が低く、その観光経営論には感銘を受けた。村興しのモデルといえる。宮崎の方言「ひんだれた」はここ百済の言葉という。

西都では、オプションとして、西都原古墳群の他、市役所を訪れた。一行は立派な応接室に通され、何事かと思った。サブライズなオプションであることは、誰も知る由がなかった。

江田神社・みそぎ池、旧・宮大工学部跡地そして青島バームビーチホテルの宴会へと続いた。

翌3日目は、現・宮大工学部の見学と大学改革の説明会が用意されていた。平野工学部長、河野教授の話は、50年前とは隔世の異質な大学像で伝わってきた。大学は変わった、の一言に尽きる。単位が足りない、卒延だの、次元の低い時代ではないようだ。大学そのものが徹して評価される時代になっている。



青島、鶴戸神宮は、日南パルプの工場見学・実習に観光バスで行った頃と変わらず、そのままの状況であった。しかし海の濁りと砂浜が小さくなったのが気に懸かった。

目 玉 この度の旅行の目玉は2つあった。

1つは、西都原古墳群である。今年は宮崎県の観光復活の年なのか、NHK朝のドラマ「わかば」や天皇陛下ご来臨による植樹祭、宮崎県発行の『ひむか神話街道』50の物語集』に見られる様に、かつては宮交による観光宮崎が、今は県をあげての戦略に転換した感が強い。中でも古代の歴史や古墳群(西都原:311基、近辺を含めると1,200基)をベースにした観光復活論には説得力があった。特に古墳群周辺は、植樹際のお陰か、博物館も新設され、環境整備もよくなっていた。

日野市長は、西都市は日向の「臍」であること、一ツ瀬川流域の歴史や特産物を自ら説明された。ピーマン、マンゴが日本一、観光客は既に年間百万人を越すなど、市長率先の意欲と熱意が伝わってきた。

そして宮崎考古学会会長の日高正晴氏による西都原古墳群についての特別講義があった。考古学と古文獻「記紀」との関係にまで論究されている説は、新鮮であった。宮内庁指定の陵墓参考地・ニニギノ命の狭狹穂塚は、実は「豊国別王」・日向国造の祖の古墳である、との新説を紹介された。豊国別は景行天皇の日向の国・高屋宮滞在時の皇子といわれている。宮内庁は、本説を参考地併設の形で認めたようだ。西都原では、古墳群と博物館は観光バスで通過するつもりであったが、日高会長に刺激されて博物館を時間まで見学することになった。縄文時代から古墳時代まで、考古学、民俗学上の遺物の多さはローカルとしては目を見張るものがあった。西都原は、再度1日かけてあらためて見学したい、という人が多かった。一行を引きつけたサブライズとはこれらのことであった。

もう1つの目的は、昭和28年入学前後の先輩後輩達と化学の先生方を交えた宴会(総勢21名)を開くことと、宮崎大学の現状を知りたい希望があったことだった。

大学では産学協同研究の話題や関心のある研究テーマもあった。先輩・企業人にとっでは、大学が以前にも増して身近なものに感じられた。古稀を迎えた我々には遅きに失した感があるが、これからの縦の繋がりは大いに期待されると思った。

むすび この歳になると、残された時間が少ないせいか、過去の方を向き勝ちである。

生涯を経済発展に尽し、歴史文化を顧みる暇もなかった。今になって企業戦士が反省される昨今ではあるが、一方ではスローライフになって、ようやく自分達のアイデンティティや歴史文化にも関心が向くようになった。

人には、我が家や故郷、そして学校、更には日本というように、そこで生まれ育った歴史的な出自を明らかにしたい本能みたいなDNAがあるらしい。その探索に応えてくれたのが、今回の「ひむか神話街道」であった、といえよう。そして、この街道への旅は、望郷と友情の心が癒される旅でもあった。

大学所感 宮大工学部(化)は、昨年の雑誌の紹介では、化学の評価がトップクラスであった。今年は審査機関からも認証されるようである。このことは大学がというより、教授陣と学生諸君の質の高さが証明されることであり、喜ばしいことだ。

大学は、単に卒業証書をもらう為の4年、6年ではなく、自分が学びたい専門を究める為の、生涯教育の場であって欲しいと思う。産学協同研究の道が開かれたのは有難いことだ。そうとなればベンチ実験、パイロットプラントなど化学工学の強化が必要だ。

前にも例を挙げたことがあるが、「音のソリトン」を実験により世界初に発見、証明したのは、大阪大学と三洋電機の共同研究の成果であった。衝撃波の変換、エネルギーの伝達など広範囲な応用が期待されている。この様な産学協同研究は、既に他大学では積極的に進められている。

企業では、グローバル化の中でナンバーワンからオンリーワンを目指せ、と言われて久しいが、大学も国際的に存在感のある特徴を出してもらいたいと思う。日本の原動力といえる歴史的な背景と豊かな自然環境に恵まれた宮崎は、学究の場としては、我が国でも最適の地であろう。

資源の枯渇、環境の破壊、これらの問題を解決する根源にあるものは、化学である。日本のノーベル賞受賞に化学が多いのは得意分野である証拠であろう。化学の益々の発展を願う次第である。

静と動で愉しむ

甲斐 重利 (昭和38年卒)

3年前に38年間勤めていた会社をリタイアし、今は高校まで過ごしていた宮崎・日向の田舎に帰り、のんびりと趣味活動中心の生活を愉しんでいる。

余暇活動とは、仕事の合間に行う活動だが、定年後にそれらに熱中していけば、それが仕事みたいになるので、趣味活動と

職場を語る

日本テキサス・インスツルメンツ(株) 美浦工場

池田 博之

[旧姓 内山] (昭和55年卒)

化学会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

つい最近では、新潟中越地震が発生し、被災地の皆さんが懸命に復旧活動を行っている姿が連日、テレビで報道されています。早く、元の状態に戻れるよう願っている今日この頃です。

ところで、先日、東京化学会の清水君から職場紹介の原稿をお願いしたいとの連絡があり、締め切りは、後2～3日なのでよろしくと頼まれ、どうしようかと迷いましたが、簡単にいいからとのことでしたので引き受けることになりました。

私が今の会社に入社したのは、1980年(昭和55年)の4月で早いもので24年になります。会社は、茨城県的美浦村にあり、目の前に霞ヶ浦があり、遠くに筑波山が望めます。また、近くに日本中央競馬会(JRA)のトレーニングセンターがあり、周りには牧場もかなりあります。美浦工場の操業は、1980年12月とういうことで私が入社した時には、工場の建設中でした。日本TI(テキサス・インスツルメンツ)は、本社が東京にあり、製造工場は国内3ヶ所(茨城・大分・静岡)にあります。資本金は、362



言い換えねばならない。

先日ゴルフで一緒になった人から、「ゴルフの他に何をやっているのですか」という質問を受けたので「囲碁です。毎週土日にある日本棋院の支部碁会に参加しています」と答えた。すると他の人が「それはいい。ゴルフの動と囲碁の静でバランスが取れているのがいい」といわれた。なるほど静と動か、とそのと

きには何気なく聞いていた。しばらくしてある本を読んでいたら、趣味活動を次の3パターン×3要素に分類しているのに出会った。

- ①活動内容からみたパターン～「体を使う」と「頭を使う」と
 - ②活動方法からみたパターン～「仲間とする」と「ひとりでする」と
 - ③活動場所からみたパターン～「屋外でする」と「屋内でする」と
- この6つの要素のうち、「体」「仲間」「屋外」に偏っていれば、「頭」「ひとり」「屋内」にシフトした趣味活動を開発して行く方がよいし、この6要素がバランスよく入っている趣味活動がよいと。

ではゴルフはどうか。6要素が全部入っているではないか。体を使い、仲間と一緒に、屋外でやる。頭も使うし、ひとりで練習場にも行く。屋内では技術書を読むこともある。動と静の分類もいいが、この分類の面白さと思った。

25年もゴルフをやっている、まだ飽きもしないで球の跡を追いかけているのは、「何でだろう」と私なりに考えてみた。ゴルフは合理性と意外性とを包んでいる。ナイスショットがアンプレアブル球になったり、無残なトップ球が一気にホールへ飛び込んだりする。それが面白い。とは言っても、理論的に正しいショットはそれだけの報いがある。だから、ローハンデキャッパーは、意外性をそれほど面白がったりしない。定年後に限りなくハンデが10に近づいて来たので、ゴルフ仲間との交流を大事にするという別の楽しみを見出したいと考えている。

囲碁の方はまだまだ未熟で、大負け・大勝の荒っぽいものだが、これまた碁仇との交流を大事にしていきたい。

年をとったら、「体」「仲間」「屋外」から離れていくことになるかもしれないので、「頭」「ひとり」「屋内」をメインとした活動にシフトすることも考えねばならないだろう。今やっているパソコンのプロバイダの会員専用のフォーラムを、年をとっても長く続けて生きたいと思っている。ハンドルネームもあるが、実名制なので無責任さはない。ここにはオフ会議で顔見知りの「仲間」も沢山いるので安心できる。

近くに点在する温泉に行くのと、油を描くことそれにしたの耳川で釣りをすること、もまだまだ続けたいと思う。

億5千万円で米国TI100%出資の外資系企業です。その中で、美浦工場は、半導体を製造しています。主な製品用途としては、携帯電話、液晶パネル、テレビ、自動車関連、DLPプロジェクタ等があります。私は、そこで施設設備を担当していて、半導体を製造するための電気、ガス、超純水、薬品等の供給からクリーンルームの維持管理等を行っています。中でも、超純水完全クロウズドシステムを操業当時から導入し、工場廃水を一切、外に出さないということが特色です。また、敷地内には古墳公園もあり、自然との調和と環境保護に取り組んでいます。今、考えれば、この超純水完全クロウズドシステムを導入するにあたり、我々、化学系のメンバーが採用されたのかなと思います。私の専攻は光有機化学で、志摩先生の研究室にいましたが、毎週、土曜日には、先生も交えて、ソフトボール大会を行っていました。その時のことが懐かしく思われます。今ではそのグラウンドもありませんが…。私の実家は鹿児島で、年に1～2回は帰省していますが、なかなか大学まで足を運ばません。今度、時間を作り、是非、宮崎に行きたいと考えております。一番番で霧島を飲めれば最高です。

こういう具合で会社紹介なのか、学生時代の思い出なのかわかりませんが、私の寄稿とさせていただきます。最後になりましたが、今後の化学会の益々の発展と関係各位のご健勝を祈念し、終わりといたします。

日之出酸素㈱

曾根 達也(平成4年卒)

卒業生の皆様、いかにお過ごしでしょうか？先日、菅本助手より一筆お願いしたいんだけど…とのこと。私は現職に就いてやっと半年経ったばかりであり、さて何を書いたものかと悩んでしまいました。簡単に学生時代から今日までの経緯と現職場、近況報告をさせて頂きたいと思います。

私は平成6年に当時工業化学科の有機第一研究室(志摩教授、保田助教)を卒業後、某樹脂メーカーに就職しました。樹脂メーカーには10年勤務しましたが主に研究開発を担当しました。研究内容は、「樹脂添加剤の開発」から「農業の開発」、「成形加工技術の開発」というようにいろいろな開発に携わり、そこでのいろいろな経験することができました。特に「成形加工技術の開発」に携わっていた頃は、技術屋としてユーザーや機械メーカーとのやり取りも多く、非常に忙しい日々を過ごしておりました。そのため体調を崩したり、家族への負担が大きくなってきたり、そのうち「自分は何のために仕事をしているのだろうか？」と疑問に思うようになりました。特に子供が生まれてからは子供を育てる環境のことや自分の人生について考えるようになり、「これではいかん！」と思い、今年の初めに一大決心し、今まで住んだ中で最も住み易かった宮崎に戻る(1ターン)ことにしました。

転職先は前職とは全く違った業界の日之出酸素㈱に採用となりました。弊社は延岡市に本社、宮崎市、日向市、都城市に営業所のある従業員数44名の会社であり、高圧ガス(工業用・医療用)各種と保護具・溶接材料・機械工具の総合商社です。私は宮崎営業所に勤務しており、産業機器グループに所属しています。毎日トラックでガスの配送および営業を行っております。営業は初めてなので入社当初は不安でしたが、お客様や上司や先輩方そして同僚に助けられ何とかモノ売りができるようになってきました。この業界の面白いところは、人と人の付き合いでモノを買って頂けることだと思います。お客さんに誠意をもってお付き合いしていれば、たとえ商品が他社と価格の競合に成っても宮崎弁で「いいが！置いちけ！」と言って買って頂けるのです。これまでの業界でのお客さんから言われる「コスト！コスト！」とは少し違うように思います。また、そうして買って頂いた時に大きな喜びと達成感を感じます。商品というよりも「私」を買ってくれた訳ですから。

私はまだ営業の「いろは」はわかりませんが、「常に相手の立場になって考える」をモットーにし、営業活動をしていきたいと思っております。

また、宮崎大学は私の担当です。先日、諸先生方や関係者の方々にはご挨拶させて頂いてますが、これからもちょうく顔を出させて頂きますので宜しくお願い致します。また、OBの皆様、高圧ガス等ご要望がございましたら是非ご連絡下さいませよう、宜しくお願い致します。

最後に、宮崎大学、OBの皆様御健勝、御健闘を祈念致します。そして終わりたいと思います。

みやざきはいま

NHKドラマ

わかばに沸く鉄肥城址

原田 繁利(38年卒)

みやざきはいま、全国のお茶の間はいま、話題を独り占めしたのが、焼酎ブームに沸く日向路、それも村上酒造に身を寄せた「ヒロインわかば物語」。

11/9~11/11 三連休、串間市大塚

の特産でもあるから芋を買いに我が家を出発、子供の国、青島を通り、掘切り峠の絶景を満喫しながら、いざ串間へ。いつもと様子が違う。

交通事故でもあったのかな、と思いつつ運転していきうちに、県外車の多さにびっくり、なんと連続TVドラマわかばブームで、観光客がどと押しかけてきたためにのろのろ運転を強いられた。

マスコミの力はすごい、五万一千石の小藩の居城のあった九州の小京都といわれ史跡が散在する狭い鉄肥の町に、撮影の場所はどこ？とあちこちに観光客が入りこみ、にわか観光スポットはてんやわんやの大賑わい。小生も野次馬気分であちこちを探索、みやざきはいまのニーズはこれしかない、翌日デジカメを片手に、前日下見したスポットを一巡してみた。近くの日南工業高校に11年間勤務しているながら、いまさらながら郷里の文化遺産に感動した。

NHKの連続TVドラマの舞台は仮名の村上酒造、日南地区には11の蔵元があり、最近続々と後継者が帰郷し、特色ある焼酎づくりを始めた地元新聞が報道していた。このドラマは、焼酎ブームに拍車をかけ、当分ブームの収まる気配はない。

予約なしでは手に入れることもできない銘酒もある。いまブームの焼酎の蔵元を卒業生諸氏に紹介しようと大手門の玄関口に近い、その名も「大手門酒造」に飛び込んでみた。暖簾をくぐるや、「あら、先生私をお

ぼえちよる！」と鉄肥美人に声をかけられ、びっくり。工業高校時代の生徒である。

創業明治28年の老舗、原料の芋にこだわり、40年間一農家との契約栽培で仕入れた黄金千貫から生まれた銘酒の数々、銀滴、黄金の日々、不阿羅王、花・天授、日日は々・壘、Ronnなど、どれも特色のある銘酒である。

TVドラマの背景の王手門を下ると明治の外務大臣ポーツマス講和条約の全権大使の誕生の碑が飛び込む。この裏に大手門酒造はある。大木の木陰。近くには明治3年建立の鉄肥杉を使った豪華な商家資料館があり、当時の繁栄を物語っている。わかばの散歩風景が放映された静かな武家屋敷の側溝には錦鯉が放流されている。

大手門を東に進むと、幕末の儒学者、安井息軒が師事した落校振

徳堂があり、小倉処平、小村寿太郎ら優秀な人材を輩出させた。

この地には、独特な弓道「四半的」がある。一説によれば、馬引、人および農民たちが手製の弓矢をもって参戦し、伊東家を勝利に導き、その功績で庶民が弓矢をもつことが許された。ただし当時

は武士以外は弓矢は許されず、四間半しか飛ばない矢、いわゆる半弓が四半的としてゆるされ競技化され、庶民に愛好され、いまや当地のスポーツとして定着し、四季折々に大会も催される。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、歴史的景観のすばらしい九州の小京都「鉄肥」。焼酎がうまい。諸氏の探索を期待します。

あとがき

- ここに会報No18をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。
- 今年4月から国立大学法人に変わりました。同窓生皆様のより一層のご支援をお願い致します。
- 今年も残り少なくなりました。皆様よりお年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。

平成16年12月 編集委員一同